

学会報

日本ビジネス実務学会

日本ビジネス実務学会・広報委員会
〒158-8630 世田谷区等々力6-39-15
産能短期大学気付
TEL・FAX(03)-3704-9180

// 特集// 2002年度 ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

1. ブロックの運営動向

- (1) 2001年度 JACB の研究助成を受けた「就職支援プログラム」の開発プロジェクトが終了し、全国大会での発表(椿・大塚)を経て学会本部へ成果物の提出がなされた。その後、当成果物を基に産能短期大学を会場として「就職活動支援教育指導法セミナー」が実施され、北崎・椿・和田が講師として派遣された。(敬省略)
- (2) JACB 記念事業として5月に開催される「ベスト・エデュケーター・オブ・ザ・イヤー賞全国大会参加者」に2名のエントリーがあり、両名をブロックとして推薦することとなった。
- (3) 全国大会におけるワークショップの開催も視野に入れ、来る5月、本部より講師を招いて「ワークショップ運営法」などの勉強会を開催する予定である。日程調整と多数の参加を呼びかけた。

2. ブロック研究会活動報告

2002年度ブロック研究会の開催状況は以下のとおりである。

- ・日時：2003年2月22日(土) 13:00~16:00
- ・会場：道都大学研究センター
- ・出席者：14名
- ・研究会終了後、場所をアスペンホテルに移して懇親会が開催された。

今回の研究会では、キャリアバンク株式会社代表取締役 佐藤良雄氏にご講演をお願いし、「派遣市場の現況と時代が求める人材像」についてお話を頂いた。日本の企業が、国際社会の中で競争力を得るために着手している人材コスト削減の熾烈

さと、それに伴う派遣労働市場拡大の可能性、専門能力に特化した人材の高価値化、教育コスト配分の考え方など、ふんだんな事例を交えた貴重なお話を伺うことができ大変有意義な時間となった。

その後、以下3件の研究発表と1件の報告が行われた。

- (1) ベスト・エデュケーター・オブ・ザ・イヤー賞全国大会参加予定者による発表
 - ①「私の教授法」(札幌国際大学 武井昭也先生)
先生が日頃取り組んでいらっしゃるプレゼンテーション授業での試みと、学生ひとりひとりを大事にするという授業運営上の基本精神が語られ、会場からの共感を得た。
 - ②「プレゼンテーション技法」(浅井学園大学短期大学部 田口智子先生)
先生が授業で実践されているという、KJ法やマップ作成による個人の思考経路固定プロセスを体験させる教育技法が披露された。
- (2) 「女性の就業における継続教育の役割」(浅井学園大学 佐々木邦子先生)
母子世帯の母親の労働市場復帰についての現状分析と、社会的弱者を対象とした教育訓練の政策的支援にまつわる提案がなされた。
- (3) 「就職活動支援教育指導法セミナー実施報告」(國學院短期大学 椿明美先生、北海道武蔵女子短期大学 和田佳子)
JACB 教授法助成研究の成果物である教材の紹介を兼ねて、昨年9月に東京で開催されたセミナーの報告が行われた。(和田 佳子 記)

関東・東北ブロック

ブロック研究会の活動

第30回ブロック研究会は、2003年2月22日(土) 東京家政学院大学の当番校により、東商スカイルームにおいて開催され、参加者は53名であった。例年に比べて少し参加数は少なかったが活気のある研究会となった。

来年度の学会統一テーマは「新しいビジネス実務教育の開発と推進」である。講演と共同研究・個人研究の発表、ワークショップ体験など充実した研究会となった。

まず、当番校である東京家政学院大学の天野恒男実行委員長から、挨拶とスケジュールが説明された。研究会に先立ち総会の席上で、佐藤啓子ブロックリーダーから日本ビジネス実務学会常任理事会での決定事項、ブロック研究会運営委員会での決定事項について報告があった。

研究会では、前半に講演会を行い、講師として元 NHK アナウンサー加瀬次男先生をお迎えし「分かりやすく情報を伝える

ポイント」というテーマで御講演をいただいた。豊富な経験からの講演であり、わかりやすく、示唆にとんだ内容であった。

午後からは共同研究及び個人研究の発表がなされた。研究発表については次の通りである。

①共同研究「ワークショップの理論と効果的運営の研究」

発表者 大宮 登氏

より良いワークショップの運営、特に住民と行政の協働をすすめるためのノウハウやワークショップの手法についての詳細な発表であった。

②共同研究「グローバル化と秘書業務」

発表者 北垣 日出子氏

IT革命が秘書業務に与えた影響を列挙しながら、これからの国際秘書のあり方についてインタビュー方式で調査した結果の興味ある発表だった。

③個人研究「群馬県における産学官のプロジェクトと学生の能力開発」

発表者 大宮 智江氏

群馬県内の9大学・短期大学が参加して行われた学生の就業意識の醸成と実務能力の養成についてのプロジェクトワークの実際について様々な観点から調査し、その分析結果をまとめた発表であった。

④個人研究「今、なぜ論語かー高等教育の現状からー」

発表者 古閑 博美氏

学生の言動の幼稚化、コミュニケーション能力の未熟さに対して、古典を読む重要性を論じ、特に論語は精神文化に大きな影響を与えてきたことから、もう一度論語を読み直す必要があるのではないかという論が展開された。

更に、コーヒープレイクを挟んで2つのワークショップが実施された。

①「コミュニケーション・ゲーム」 主催者 井上 良之助氏

働く時には他の人達と何らかの関係が生じる。その関わり方を組織階層のある集団で会見を通して気づかせる。5人1チームでアンケートとチーム内話し合いを実施する。最後にインストラクターがまとめる。

②「ブラインド・ウォーク」 主催者 古閑 博美氏

ホスピタリティーの実践として、視覚障害者を補助したり理解するための体験学習を行った。これを、ホスピタリティー・スピリットの涵養やホスピタリティーの実践に必要な気づきの感覚を養うのに役立つ手法として提案された。

研究会終了後の懇親会では、参加者相互の情報交換や親睦がはかられ華やかな雰囲気の中ですべてのプログラムが終了した。

中部〈東海・北陸〉ブロック

「ブロック運営委員会」の活動

企画運営としてブロック研究会の開催、研究推進事業として共同研究への助成を行い、着実な成果をあげている。また、今年6月の第22回全国大会の開催に向けてブロック運営委員会を中心に全国大会実行委員会を発足させ、準備に着手した。運営委員会の概略は以下のとおりである。

第1回運営委員会（2002年9月29日・静岡文化芸術大学）

- 1) ブロック研究会の開催について
- 2) ベスト・ティーチング・オブ・ザ・イヤー賞について
- 3) 役員・評議員選考委員の選出について
- 4) 第22回全国大会の開催について
- 5) 次回の運営委員会の開催について
- 6) 2003年度のブロック研究会の開催について
- 7) 運営委員の交代について
- 8) 2003年度のブロック研究会の開催について

第2回運営委員会（2003年1月11日・一宮女子短期大学）

- 1) 2002年度中部ブロック研究会の開催について
- 2) 中部ブロック運営委員の交替について
- 3) 日本ビジネス実務学会・役員評議員選考委員の選出について
- 4) 次回のブロック研究会の開催について
- 5) 2003年度のブロック助成研究について
- 6) ブロック会報について
- 7) 報告事項

① ベスト・エディケーター・オブ・ザ・イヤー賞全国大会の候補者について

② JACB委託研究について

③ 第22回全国大会の開催について

8) その他

第3回運営委員会（2003年1月12日・一宮女子短期大学）

- 1) 新旧運営委員の引継について

(中村健壽 記)

「ブロック研究会」の開催

本年度（2002年度）の中部ブロック研究会は、2003年1月11日～12日の両日、一宮女子短期大学において開催された。

研究会は、ブロックリーダー中村健壽先生の開会あいさつに続いて総会が行われ、学会の動向や当ブロック運営委員会の活動報告、ブロック研究助成の報告、さらに次期運営委員の就任および次回ブロック研究会の会期、場所などの議案が満場一致で承認された。とくに本年6月には当ブロック担当で全国大会が開催されることもあり、会場は活気がみなぎっていた。

第1日目は、一宮女子短期大学学長・安江嘉高先生の特別講演でスタートした。「楽しくなければ学校じゃない！面白くなければ授業じゃない！」という演題での貴重な講演に、学校改革について認識を新たにする機会を得た。続いて、ブロック研究会の助成を受けた2つの研究の成果報告が行われた。その他、ワークショップ体験の特別プログラムが設けられ、全員がワークショップの参加者になり、熱い時間を共有し、ユーモアある発表で大いに盛り上がった。

2日目は、4件の研究発表が行われた後、JACB主催の「ベスト・エディケーター・オブ・ザ・イヤー賞」へのブロック推薦のプレ発表がなされた。

また、1日目の夕刻には恒例の懇親会が「ハックベリー」で開催された。会場校の学長、事務局長も臨席され、川口先生のすてきな司会と石川先生のピアノ演奏など優雅な雰囲気の中、旧交を温め、教育・研究の情報交換、発表者との質疑応答などが繰り返され、楽しい宵を過ごした。

今回は、2004年1月10日（土）・11日（日）に川口直子先生を中心に名古屋地区で開催される。

(岡野 絹枝 記)

近畿ブロック

昨年度(2001年)から研究会を年1回にし、内容の充実を計ってきました。2002年度の研究会は2003年3月15日(土)、10:00am~5:00pm 大阪府立文化情報センターにて29名の参加を得て開催されました。そのあと5:15pm~7:00pmまで教育研修懇親会をもちました。

第1部は足塚智志先生(大阪樟蔭女子大)の総合司会のもと、最初、総会を開き仁平征次ブロックリーダー(関西国際大)より活動状況報告、全国大会に向けての取り組み、研究助成の件および会計報告をいただきました。なお、2003年度の研究助成は以下の通りです。

①『キャリア形成と生涯学習観—インターンシップと生涯学習観—』

油谷純子先生(大阪国際大短大) 足塚智志先生(大阪樟蔭女子大)

②『非営利事業のビジネス実務に関する研究』

林雄太郎先生(大阪キリスト教短大) 堀正久先生
西郷・Webbr・清美先生

総会のあと、特別企画として講演と事例報告がありました。講演は岡本武史氏(岡本武史事務所代表)が『新規学卒者の雇用状況と求められる人材—オンリーワンの時代がやってくる!—』と題し、変貌する雇用環境の内実とこれからの働き方について示唆的な講演をされました。事例報告は塹江隆先生(関西国際大)が『旅行業・観光業界の雇用状況』につき、業界の採用状況を紹介されました。

研究発表は2名の先生がなされました。林雄太郎先生は『ビジネス学確立理論の研究(第8報)』と題し従来の研究発表のサーベイと展望を示されました。即ち、ビジネス論の範囲を確定し、次いでビジネス論と経営学・組織論の相違点を検証し、20世紀と21世紀のビジネス・マネジメントの諸特徴を列挙され、今後の研究すべき方向性を話されました。

石田絳子先生(京都学園大)は『女性の就業継続を妨げる要因は何か—働く女性と男性管理職へのアンケート調査から—』と題し、京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・滋賀県で働く女性222名(回収率:68.9%)および京都府・大阪府・兵庫県で働く人事・総務担当管理職39名(回収率:74.4%)への郵送による質問紙法の結果を報告されました。この結果は現在分析中であり、さらに、ノルウェーとの比較研究も予定されている旨、今後の展開が期待されます。

第1部の最後に研修をおこないました。「ワークショップの実際」と題し、日本ビジネス実務学会副会長の大宮登先生を招き、ワークショップの概要と実際を研修しました。

第2部は教育懇親会をもちました。最初に福永弘之先生(前ブロックリーダー、姫路工大)による乾杯のあと、研究や教育方法、就職等につき相互の交流を持ち、研究等への理解を深めました。

中国・四国ブロック

●ブロック総会 開催

2002年8月31日(土) 香川県高松市(高松短期大学)
議事内容として、「2001年度事業報告」、「会計報告」、「2002年度事業計画」、「2002年度予算」、「理事会報告」がおこなわれ承認された。また、ブロック総会・研究会の次年度開催地は広島となり、当番校は、広島女学院大学となった。

●ブロック研究会 開催

2002年8月31日(土)~2002年9月1日(土) 香川県高松市(高松短期大学)

出席者 33名、発表件数 12件

本年も、昨年同様1泊2日でのブロック研究会が香川県高松市(高松短期大学)で開催された。発表は12件もあり、また興味深い教育方法の研究、最近の諸問題など、内容も多岐にわたり出席者からは好評を得た。また、「地域観光とビジネス教育」をテーマにパネリストとして、JTB高松支店長 松岡 勝哉氏、高松観光協会理事三矢 昌洋氏、高松市文化振興課課長馬場 朋美氏の3名をむかえ観光産業を中心にトークセッションをおこなった。

●ブロック運営委員会 開催

ブロック運営委員会は、2002年6月1日(土) 佐賀県(佐賀女子短期大学)、2002年8月31日(土) 香川県高松市(高松短期大学)の合計2回行った。

企画運営として、来年度のブロック研究会の開催に関する、開催時期、経費を節約した案内方法の検討をおこない、8月31日~9月1日とした。また、会員数の拡大のための方策を検討する。官・民・NPOなどへの積極的な働きかけ、共同研究、イベント企画を模索する。会報の内容、構成等を再検討、次年度以降のブロック運営費を確保する。来年のブロック大会については、中国四国ブロック20回記念行事としての内容と今後のビジネス実務教育のあり方について検討おこなった。

研究推進運営としては、ブロック共同研究の募集、応募方法、選考方法等を検討し、官・民・NPOなどとの共同研究の可能性を模索している。

広報・情報運営においては、会員相互のネットワークづくりのために、低廉で使い易いシステムの構築、ホームページの内容の充実などの検討をおこなった。

九州・沖縄ブロック

1. ブロックの運営動向

2002年度の九州・沖縄ブロック研究会は、沖縄県のマリンドリフトホテル浜比嘉および福岡市民会館において例年通り二回

開催された。概略は下記のとおりである。

研究会当日開催の運営委員会において、前年度の活動報告、会計報告、今年度の活動状況、来年度の事業計画が審議承認さ

れた。また、今年度は運営委員の一部改選期に当たるので数名の方に交替をお願いした。

運営委員会の後、研究会会場にて上記の提案、計画等の議案が提出され承認された。

2. 研究会活動

- 第 32 回研究会 -

期 日：2002 年 10 月 5 日 (土)

会 場：マリンリゾートホテル浜比嘉 (沖縄県)

出席者：23 名

特別セッション：「ビジネス実務教育をめぐって」

座長：増田卓司 (九州共立大学)

講演：「沖縄からのビジネスモデル論」

講演者：宮城弘岩 (沖縄物産企業連合、沖縄大学)

座 長：大城智美 (沖縄女性研究者の会)

研究発表

「日本的経営の国際化に関する考察

—労働の人間化を中心に—

発表者：高禎助 (久留米信愛女学院短期大学)

座 長：國分孝志 (日本文理大学)

「SFTZ(Special Free Trade Zone)のビジネス現場

—視察と考察—

発表者：平良敏昭 (沖縄県商工労働部企業立地推進課)

：大城智美 (沖縄女性研究者の会)

座 長：坂本一登 (福岡女子短期大学)

- 第 33 回研究会 -

期 日：2003 年 2 月 16 日 (日)

会 場：福岡市民会館 (福岡県)

出席者：19 名

研究発表

「ビジネス実務演習の Case Method について」

発表者：佐古俊郎 (香蘭女子短期大学)

座 長：白川美知子 (九州共立大学)

「対応実務におけるベーシックマナーと敬語」

発表者：池田一生 (福岡女子商業高等学校)

座 長：木原すみ子 (九州龍谷短期大学)

「企業経営における未来学、その 4—消費者の権利を中心として」

発表者：北原康司 (佐賀女子短期大学)

座 長：中村美代子 (長崎純心大学短期大学部)

「職業興味と就職意識の啓発について」

発表者：木原すみ子 (九州龍谷短期大学)

座 長：杉原英夫 (九州共立大学)

第 32 回の研究会は、大城先生のお世話により 7 年ぶりに沖縄での開催となり、朝から夜まで盛りだくさんの内容となった。特別セッション、講演、研究発表、FTZ の視察、研究会開催を記念しての植樹(ウスクーハマビク)行事、さらに懇親会における教育・研究についての情報交換、参加者の近況報告等々、参加者相互の親睦を深め盛会のうちに無事すべてのプログラムを終了した。

(坂本一登 記)

研究発表一覽

趣意書に掲載されている研究区分によりまとめてあります。

【1】 ビジネス実務現象の研究

1) ビジネス環境と実務

- ・ グローバリゼーションと秘書業務
北垣 日出子 (日本橋女学館大学)
- ・ 女性の就業継続を妨げる要因は何か
—働く女性と男性管理職へのアンケート調査から—
石田 紅子 (京都学園大学)
- ・ 就職意識高揚を目的とした「プロジェクトワーク」の
実践
粟屋 仁美 (比治山大学短期大学部)
- ・ ビジネスと社会貢献
—アーティスト サロンの事例—
梅田 和子
- ・ 今、産業界が求める人的資質 —教育成果を高める高
大連携教育のあり方—
栗井 謙甫 (税理士)
- ・ 社会貢献に関する一考察
樋口 紀子 (梅光学院大学女子短期大学部)
- ・ 多様性マネジメント
篠原 收 (広島女学院大学)
- ・ 日本的経営の国際化に関する考察 - 労働の人間化を
中心に -
高 禎助 (久留米信愛女学院短期大学)

- ・ SFTZ(Special Free Trade Zone)のビジネス現場-視察
と考察-
平良 敏昭 (沖縄県商工労働部企業立地推進課)
大城 智美 (沖縄女性研究者の会)
- ・ 企業経営における未来学、その 4—消費者の権利を中
心として—
北原 康司 (佐賀女子短期大学)

2) 時代を切り拓くビジネス実務

- ・ ワークショップの理論と効果的運営の研究
大宮 登 (高崎経済大学)
- ・ 群馬県における産学官のプロジェクトと学生の能力
開発
大宮 智江 (高崎商科大学短期大学部)
- ・ 短大におけるボランティア教育について
—5 短大におけるボランティアに関するアンケート調査—
加藤洋二郎 (一宮女子短期大学)
柴山 正 (名古屋大学短期大学部)
清水たま子 (愛知江南短期大学)
岡野 絹枝 (金城大学短期大学部)
川口 直子 (名古屋文化女子短期大学)
一柳 達幸 (一宮女子短期大学)

- ・NPOによるベンチャー支援について
ー地域活性化と可能性についてー
山本 慶子 (香川短期大学)
- ・医療管理における情報システムの研究 I
三宅 耕三 (香川短期大学)

3) 個人とチームの実務能力の開発

- ・女性の就業における継続教育の役割
佐々木邦子 (浅井学園大学)
- ・就職支援活動の課題
戸田 昭直 (浜松短期大学)
- ・職業興味と就職意識の啓発について
木原すみ子 (九州龍谷短期大学)

【2】 ビジネス実務教育

1) ビジネス実務能力開発の教育研究

- ・私の教授法
武井昭也 (札幌国際大学)
- ・プレゼンテーション技法
田口 智子 (浅井学園短期大学)
- ・ビジネス学確立理論の研究 (第8報)
林雄太郎 (大阪キリスト教短期大学)
- ・これからのビジネス実務能力
立花 知香
- ・学生募集における実務教育の位置付け
曾根 康仁 (瀬戸内短期大学)
- ・応対実務におけるベーシックマナーと敬語
池田 一生 (福岡女子商業高等学校)

2) 教授法の研究

- ・今、なぜ論語かー高等教育の現状からー
古閑 博美 (嘉悦大学短期大学部)

- ・戦略経営理解とビジネス実務力養成のための学生起業論教授法ー戦略経営の理解と実践の起業家精神の育成ー

- 岡野 絹枝 (金城大学短期大学部)
- 川口 直子 (名古屋文化女子短期大学)
- 笹瀬佐代子 (浜松短期大学)
- 西川 峰高 (金沢学院大学)
- 野口喜美代 (富山コンピュータ専門学校)
- 宮本トシコ (長岡大学)
- 北潟 克輔 (金沢経済大学)
- 松任商工会議所・(株)国際ビジネス戦略研究所

- ・インターンシッププログラムの開発に向けて

- 一柳 達幸 (一宮女子短期大学)
- 渡邊 敬与 (一宮女子短期大学)
- 滝 雅士 (一宮女子短期大学)

- ・日本語表現における語彙力、想像力向上を目指した授業の試み

- 水口美知子 (名古屋経済大学短期大学部)

- ・教育力・指導力の向上に向けて

- 石川 隆行 (一宮女子短期大学)
- 一柳 達幸 (一宮女子短期大学)

- ・ビジュアルプレゼンテーションの教育事例
ー色使いのテクニックー

- 荒谷 眞由美 (川崎医療福祉大学)

- ・公益法人における資金概念の考察
ーその教授法に関してー

- 須藤 芳正 (川崎医療福祉大学)

- ・プレゼンテーション教育の試み

- ーパフォーマンス学の応用ー
- 久次 弘子 (広島国際大学)

- ・ビジネス実務演習の Case Method について

- 佐古 俊郎 (香蘭女子短期大学)

2002 年度ブロックリーダー・サブリーダーおよび運営委員

◎ (リーダー)、○ (サブリーダー)

【北海道】

- ◎ 中川 昌代 (道都大学)
- 椿 明美 (國學院短期大学)
- 大塚 映 (札幌医療秘書福祉専門学校)
- 北崎 寛 (札幌国際大学)
- 丹治 和典 (札幌国際大学)
- 和田 佳子 (北海道武蔵女子短期大学)

【関東・東北】

- ◎ 佐藤 啓子 (常磐短期大学)
- 池内 健治 (産能短期大学)
- 武田 秀子 (高崎商科大学短期大学部)
- 天野 恒男 (東京家政学院大学)
- 井上良之助
- 植竹由美子 (仙台白百合短期大学)
- 大島 武 (東京工芸大学女子短期大学部)

- 風戸 修子 (産能短期大学)
- 古閑 博美 (嘉悦女子短期大学)
- 佐藤東九男
- 佐藤美津子 (湘南国際女子短期大学)
- 芝原 脩次 (WAKUWAKU ヒューマンカンパニー)
- 高井由喜雄 ((財)実務技能検定協会)
- 田寺 典江 (常磐短期大学)
- 島田 幸恵 (湘南短期大学)
- 三村 善美 (東洋女子短期大学)
- 山口 憲二 (新島学園女子短期大学)

【中部】

- ◎ 中村 健壽 (静岡文化芸術大学)
- 佐々木怜子 (愛知学泉短期大学)
- 北潟 克輔 (金沢経済大学)
- 吉田 寛治 (金沢学院大学)
- 柴山 正 (名古屋女子大学短期大学部)

一柳 達幸 (一宮女子短期大学)
岡野 網枝 (金城大学短期大学部)
鎌田 和江 (名古屋女子短期大学)
川口 直子 (名古屋女子文化短期大学)
権田 恵子 (名古屋経営短期大学)
戸田 昭直 (浜松短期大学)
福岡 欣治 (静岡文化芸術大学)
真弓 徳光 (高田短期大学)

【近畿】

◎仁平 征次 (関西国際大学)
足塚 智志 (大阪樟蔭女子大学)
石田 紘子 (京都学園大学)
有働 寿恵 (梅花短期大学)
塚原 昭人 (四天王寺国際仏教大学)
笠原多恵子 (京都創生大学)
油谷 純子 (大阪国際大学短期大学部)
河原 和英 (大阪樟蔭女子大学)

【中国・四国】

◎佃 昌道 (高松短期大学)

篠原 収 (広島女学院大学)
垣見 益子 (中国短期大学)
西川三恵子 (土佐女子短期大学)
桐木 陽子 (松山東雲短期大学)
樋口 紀子 (梅光大学短期大学部)
今林 宏典 (呉大学短期大学部)
吉田 行宏 (安田女子短期大学)
岡部 瑞穂 (岡山短期大学)

【九州・沖縄】

◎坂本 一登 (福岡女子短期大学)
○白川美知子 (九州共立大学)
木原すみ子 (九州龍谷短期大学)
杉原 英夫 (九州共立大学)
中村美代子 (長崎純心大学短期大学部)
浅岡 袖美 (中村学園大学短期大学部)
大城 智美 (沖縄女性研究者の会)
藤村やよい (久留米信愛女学院短期大学)
山本 浩貴 (東筑紫短期大学)
花崎 正子 (東筑紫短期大学)

2002年度新入会員 (2001年8月25日～2002年8月25日)

足立 啓子 (就実短期大学)
粟井 謙甫 (株式会社穴吹レジャサービス
TAC 岡山校)
飯田 宮子 (東京立正女子短期大学)
飯塚 順一 (産能短期大学)
池田 一生 (福岡女子商業高等学校)
江藤 智佐子 (福岡リゾート&スポーツ専門
学校福岡ビューティアート専門学校)
海老澤 栄一 (神奈川大学)
大霜 洋 (九州スタッフ株式会社)

釜賀 雅史 (愛知女子短期大学)
栗原 裕 (愛知大学)
坂口 英治 (町おこし研究所)
坂田 正明 (東筑紫短期大学)
坂本 剛 (名古屋大学大学院)
高橋 修 (産能大学大学院)
長堂 嘉郎 (株式会社EM研究機構)
原田 青司子 (金城大学短期大学部)
福井 逸治 (大阪千代田短期大学)
藤澤 法義 (札幌国際大学)

船越 久人 (大阪城南女子短期大学)
塹江 隆 (滋賀女子短期大学)
馬渡 晴男 (青葉学園短期大学)
森 大樹 (大阪千代田短期大学)
山本 浩貴 (東筑紫短期大学)

再入会
余語 真夫 (同志社大学)

学会報 37号に関する訂正とお詫び

2002年8月発行の学会報 37号に誤りがございました。
訂正箇所は以下のとおりです。

- ・研究発表「ホスピタリティ産業におけるホスピタリティの実践状況—アンケート調査結果の分析—」の研究メンバー紹介に半島 光恵先生 (西武文理大学) のお名前がぬけておりました。
半島先生をはじめ、関係者のみなさまにご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げるとともに、訂正いたします。

【訃報】

高月 東一先生 (前顧問)
2002年6月10日逝去

心よりご冥福をお祈りいたします。